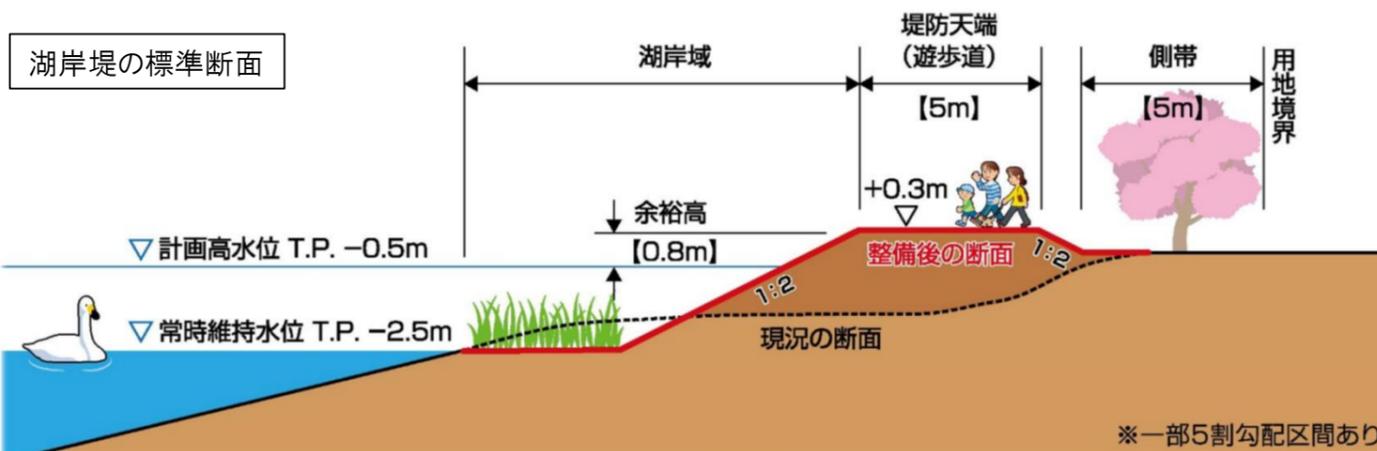


■ 鳥屋野潟

水都にいがたのシンボルである鳥屋野潟は、流域の大半が海拔ゼロメートル地帯です。昭和53年の水害を契機に治水対策に取り組んでおり、現在は湖岸堤の整備(延長6.4km)を進めているところです。整備の目標:50年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



- 治水、環境保全、利活用の観点で県民の関心が非常に高く、学識経験者や関係団体の代表で構成される委員会や地域住民等との意見交換を行い計画を策定しています。



湖岸堤整備状況



■ 福島潟

福島潟を含む新井郷川流域では、昭和42年の羽越水害を契機に治水対策に取り組んでおり、福島潟では現在、湖岸堤の整備(延長9.4km)を進めているところです。整備の目標:30年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



- 潟外への浸水を防止するため湖岸堤の整備を進めています。
- 洪水を福島潟放水路へスムーズに流下させるため、福島潟水門の整備を進めています。



- 福島潟は、日本でも有数の野鳥の楽園であり、国の天然記念物であるオオヒシクイの渡来数は5,000羽以上と日本一を誇ります。また、日本の水生植物の中で一番大きなオニバスの北限自生地にもなっています。このため、潟内の動植物や周辺環境との調和を図りながら整備に取り組んでいます。



■ 中ノ口川

中ノ口川は、燕市道金で信濃川より分派し、新潟平野を貫流して新潟市西区善久で再び信濃川下流に合流する流路延長約32kmの一級河川です(事業延長21.8km)。

整備の目標: 信濃川本川と同規模である150年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水被害の解消



● 河積阻害解消に向けて塩俵橋の架替えを実施しています。

● 堤防の嵩上や堤防の厚さの確保などの対策工事を進めています。



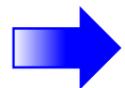
月の輪工(水防工法)による漏水対応



平成23年7月出水

■ 通船川・栗ノ木川 護岸老朽化対策

新潟地震後に建設され、老朽化した矢板護岸について、修復や更新を行っています。



■ 河川の利用

河川は、自然豊かな憩いの場として、多くの人々が水遊び・魚釣り・散歩等を楽しめる空間となっています。河川は公共のものなので、基本的に誰もが自由に利用することができますが、なんでも自由に利用できるということではありません。許可なく河川を汚したり、破壊したり、また、他の利用者の迷惑となる行為は、河川法やその他の法律により禁止または制限されています。

河川を利用するときは、他の河川利用者や付近住民に迷惑・危険を及ぼさないように、みなさんで気持ちよく利用していただくようお願いします。

憩いの場として利用



課外授業を受ける小学生



■ 河川の維持管理

河川としての機能を確保するためや、河川を安全かつ快適に利用できるよう、堤防点検の実施や、堤防の変状等が確認できるように除草を行うなど、河川の管理を行っています。特に矢板護岸は新潟管内の護岸の半数以上(県管理河川全体の3分の1以上)におよび、経年劣化による腐食、河床低下による傾斜が散見されていますが、緊急度、優先度を考慮しながら、予算の範囲内で対応しています。また、西川水路橋などの重要な河川管理施設については、長寿命化計画を策定し、適切な点検や補修を行っています。

● 西川・新川立体交差
低平地の排水のため、江戸時代に人工的に掘られた新川と、元からあった西川が立体交差しています。現在の施設は三代目で水路橋となり、新川の上を西川が流れています。



日常的な河川パトロール



堤防の除草



川と川の立体交差

■ 河川情報の提供

県内の河川水位や雨量などの情報を、県のインターネットサイト「土木防災情報システム」を通じて、観測データをリアルタイムで公開しています。

情報取得方法として、パソコン版と携帯端末版(スマートフォンサイト、従来型携帯サイト)の3つがあります。

パソコンからは

新潟県河川防災情報



携帯電話からは



スマートフォンからは

